

2023年度 事業報告書

2023年度は、5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類へと移行になり、これまで制限や中止をしていた家族面会や秋祭り、敬老会など季節行事の開催と各サービスにおける外部ボランティアの受入も再開し、施設においてコロナ禍前の潤いのある生活に近づけるよう、取り組みを行った。

当法人が経営する各介護サービスについて、入所系サービスは、安定稼働となったが、訪問通所系サービスの利用が低調であり課題が残るも、法人全体としては前年度を上回る事業成績をあげることができた。職員個々の頑張りに感謝したい。旧いもほりの家の転用について行政と調整を行ってきたが、年度内の決定は実現できず、次年度については当該施設の転用サービスを決定し、併せて地域の在宅生活高齢者へのサービスの拡充を図っていく。

<顧客の視点>

1. 地域、利用者ニーズに柔軟に対応することができる。

科学的介護情報システム（LIFE）の有効活用について、データの入力や役割分担などを明確化など、入力段階での成果をあげることができたが、実効性のあるところまでは未達となった。次年度は介護報酬にもつながるところまで達成できるよう、取り組みを行う。

利用者が日々の生活のなかで生きがいや安心感を持てただけの取り組みとしては、コロナ5類移行に伴い、ご家族の面会時間等の拡大や、敬老会、秋祭りに加え外出企画も実施し、ご利用者の笑顔やご家族の安心が回復した。

高齢者生活福祉センターの有効利用については、利用者の退居に加え、新規利用希望者が少ないなかで、稼働が下がる結果となった。引き続き利用促進の取り組みを強化していく。

在宅生活高齢者へのサービスと公益活動として、旧いもほりの家を利用した在宅高齢者の居場所づくりとして、多職種連携によりご近所サポーター養成講座や、ドローンカフェなどを実施した。

<業務プロセスの視点>

2. 地域資源との連携を深め、開かれた施設サービスが提供できる。

リスク管理については、既存BCP及び感染症対策BCPについて作成できた。次年度以降も継続的な見直しを行い、より実効性の高いものにしていく。

介護事故防止・虐待防止の取り組みとしてリスク・身体拘束廃止の委員会を毎月開催するとともに、職員研修を実施した。また、防災やリスク管理と利用者の快適な生活支援として、居室の引き戸の改修や、老朽化した特殊浴槽と介護ベッドの更新をした。

広報誌の充実化については、広報委員会を中心にその内容の検討をおこない、具体的かつ分かりやすい広報誌としての向上を図ることにより、地域への情報提供を実施することができた。また、特養入居に特化した記事の掲載も行い新規入居者確保の取り組みを行った。

<職員の学習と成長の視点>

3. 全職員が専門性、組織性、人間性を高め、自分らしく能力が発揮できる。

資格取得の支援体制強化の取り組みの結果、介護福祉士試験合格者（2名）の成果をあげることができた。施設内学会を予定通り実施し、在宅・福祉静岡ブロック聖隷福祉学会で演題発表を行った結果、最優秀賞を獲得することができた。

介護現場でのDXについては、施設内のWi-Fi環境の整備と、インカム導入を行い、職員間のコミュニケーションの円滑化や業務中のリスク軽減及び入居者等の生活環境の向上の取り組みを行った。また、特殊浴槽の更新により、より快適な入浴時間と職員の負担軽減の両立を図ることができ

た。

職員満足度の向上や業務負担感の軽減策として、送迎時等の運転手当を新たに規定し、次年度4月から運用開始することとした。

<財務の視点>

4. 最適事業規模による持続可能な安定した経営基盤が確立できる。

財務的数値は以下のとおりである。

経常増減差額は予算数値9,152千円に対し、前年対5,603千円増益の、9,809千円の実績であった。

労働生産性の向上

- ① 給与換算職員一人当たりサービス活動収益前年度比1%以上の計画に対し、1%増の実績であった。(職員一人当たりサービス活動収益、前年度7,357千円、今年度7,394千円)
- ② 在宅サービスにおける給与換算職員一人当たり利用者延件数前年度比10%以上の計画に対し、前年度比27.1%増の実績であった。(在宅職員一人当たり利用者延件数、前年度1,052人、今年度1,337人)

法人経常増減差額率の向上

- ① 法人経常増減差額率2%以上の計画に対し、2.4%の実績(経常増減差額前年度4,206千円、今年度9,809千円)

長期人的資源に見合う事業規模の検討

- ① 職員離職率5%以下の計画に対し4.8%の実績であった。(正規職員数、期首42名、退職者2名)

<地域における公益的な取組みについて>

公益的な取組みを以下のとおりおこなった。

- ① 社会福祉法人等による利用者負担軽減制度により利用料の負担軽減
- ② 広報誌「ほほえみ」の発行により地域への福祉・介護の情報提供
- ③ 地域の事業所や関係機関で組織する「さくまだ和いネット」に参加し多職種で高齢者を見守る取り組みに参加
- ④ 地域包括北遠中央圏域協議体委員として、北遠地域の地域課題等を把握するとともに関係機関としての情報提供
- ⑤ 旧いもほりの家を利用し、地域住民同士の交流の場として茶話会や、介護説明会、健康教室など多職種連携による活動を実施
- ⑥ 秋祭りを実施し、ご入居者や地域住民との交流を実施。

2023年度 利用実績表

	特 養	ショート
平均介護度	3.8	2.5
1日平均利用者数	43.8人	19.6人
利用延べ数	16,045人	7,167人
稼働率	99.6%	98.0%
新規利用者数	18人	58人

	デイ一般	デイ認知	元気はつらつ	訪問介護
平均介護度	1.5	2.1	—	1.1
1日平均利用者数	14.5人	5.0人	9.0人	8.5人
利用延べ数	3,728人	1,277人	843人	2,690人
稼働率	58.0%	62.0%	—	—
新規利用者数	28人	6人	6人	22人

	居宅支援	高福祉センター
平均介護度	—	1.0
1日平均利用者数	70人	7.8人
利用延べ数	840人	2,869人
稼働率	—	98.0%
新規利用者数	30人	4人

※元気はつらつ教室：延べ利用者数は稼働日数94日（水・金）を基に算出

※居宅支援：平均利用者数は1ヶ月の給付管理対象者数の年間平均を掲載